

防災リーフレットについて

① 配布先

- ア 公立小・中・高等学校・特別支援学校の全児童生徒
- イ 市町村教育委員会
- ウ 公立・私立幼稚園・保育所
- エ 私立学校の全生徒

② リーフレットの必要性

昨年3月11日に発生した東日本大震災では、これまでの想定をはるかに超えた巨大地震・津波によって広い地域で甚大な被害が発生し、多くの尊い命が失われた。

本県でも、過去に昭和58年（1983年）の日本海中部地震、平成3年（1991年）の台風19号をはじめ、自然災害により多くの被害、犠牲者が出ており、東日本大震災を教訓として、学校における防災教育のより一層の充実を図る必要があるため作成した。

③ リーフレットの特徴

ア リーフレットの内容については、災害発生時の対応の仕方などを中心に構成し、災害発生時に児童生徒が迅速に行動できるよう配慮した。

イ イラストや写真を多用し、見やすく、分かりやすい内容とした。

ウ 地震が発生した場合の対応の仕方を、学校にいるとき、外出中のとき、家にいるときに分けて掲載するとともに、台風、竜巻などの風水害発生時の対応、避難の心得について記載した。

また、校種別では、中学生用と高校生用に災害時におけるボランティアに関する内容を掲載するなど、発達段階に応じた内容とした。

エ 災害発生時の避難場所や連絡先の記入欄、非常持ち出し品のチェックリストを掲載し、学校だけではなく家庭でも防災について話し合うことのできる内容とした。

④ リーフレットの有効活用に向けて

各校においては、「自分の命は自分で守ることができる幼児児童生徒の育成」という、本県防災教育の目標や、学習指導要領解説等に示されている防災教育の位置付けを踏まえ、各校で取り組んでいる防災教育のねらいや重点などを明確にし、次のとおり本リーフレットの有効活用に取り組むこと。

ア いざというときの対応の確認

児童生徒に熟読させるとともに、災害発生時の教職員及び児童生徒並びに保護者の対応や行動の仕方等について、注意を喚起させる。

特に児童生徒に対しては、今後発生する恐れがある地震や風水害に対して、自らが安全を確保するための適切な行動や日頃から意識しておくことなどについて考え、防災意識を高めることができるよう、リーフレットを有効活用すること。

イ 学校における防災教育の教材として

各校が作成している、防災教育年間指導計画に沿って、指導にあたる際には、（教科指導・学級指導・全体指導等）リーフレットを教材として活用し、教育内容の充実に努めること。

ウ 各学校等の実情に応じて

各学校の防災体制は、その地理的な条件や児童生徒等の状態により異なる。リーフレットの内容を参考に、自校の防災体制の見直しや改善につなげるとともに、各学校等における防災教育がより実効性の高いものとなるよう努めること。